

令和4年度家庭教育支援基礎研修会 開催報告

日時 令和4年6月24日(金)13:30~16:30

会場 滋賀県庁東館7階大会議室

参加人数 117名(会場29名、オンライン88名)

内容

- 行政説明「家庭教育を取り巻く現状や課題から見える家庭教育支援」
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室 室長補佐 中上 郁夫 氏
- 講演「地域のニーズに応じた家庭教育支援について」
講師 森下 順子 氏(和歌山信愛大学 教育学部子ども教育学科 准教授)
- 情報交換

当日の様子



【参加者の感想より】

- 子育て支援の大切さと必要性、そして子育ては一人でするものではないということを森下先生に教えていただきました。子育ての悩みを共有したり、サークル仲間で新たなものを作りあげたりするなかで、保護者間の「対話」が生まれ、それが保護者の生きがいにもつながっている事例を知り、「人と人とのつながり」が家庭教育支援には欠かすことはできないことを学びました。
- 地域コーディネーターをされている方と情報交換で交流ができ、地域の方の思いを知ることができました。学校でも生かしていきたいと思いました。
- 家庭教育支援について、たくさんの情報をいただき、たいへん勉強になりました。手の届きにくいところへの支援である、「アウトリーチ型」の手法の必要性についても考える機会をいただけて、たいへんよかったです。
- 子育て支援が充実していても、家庭や地域社会が子育てをする家庭に寄り添っていなければ、保護者は孤立感や孤独感を感じてしまうことを知りました。「子どもは地域で育てる」という意識や、気軽に相談できる場が大切であることが分かりました。
- 普段、学校で接している保護者の気持ちをあらためて考えることができた。よき相談相手でいられることが必要だと思いました。
- 地域の活動の積み上げが家庭教育支援や子育て支援に大きく関係していることに気付くことができました。どのような取組がこれからできるのか、考えてみたいと思います。
- 保護者に寄り添ってもらえる関係性の方が増えていくことが必要であると感じました。

訪問型家庭教育支援とは？

学びの場や相談の場などに出向くことが難しい家庭を訪問して支援を届け、保護者への支援を通じて子どもの育ちを支えるアウトリーチ型の家庭教育支援活動です。

具体的な取組内容

- ①保護者からの相談への対応
- ②保護者に対する情報提供
- ③専門機関への橋渡し

訪問の目的は、届ける支援を必要とされている家庭との「つながりづくり」です。会話や交流を通して顔の見えるコミュニケーションづくりを！

◎訪問型家庭教育支援の主な役割

- ①家庭の孤立化を防ぎ、問題の発生予防や早期発見につながります。
- ②保護者の話を丁寧に聞いて、悩みや不安を解消します。
- ③保護者が学びの場などの拠点につながるよう支援します。
- ④必要に応じて、関係諸機関の支援につながります。

